

令和4年4月 定例教育委員会について

- 日 時 令和4年4月11日(金) 16:00～18:00
- 場 所 学習室
- 参集範囲 教育委員 帯刀教育長、湯澤委員、鈴木委員、庄司委員
事務局 福島事務局長、高野公民館長、清水局長補佐兼学校教育係長、
松島こども支援係長、久保田局長補佐兼社会教育係長、
前田こども家庭総合支援室係長、木村給食センター長、
原総副園長

1、開会

2、教育長あいさつ

4月になり、学校が始まり、範囲地区の高校でクラスターが発生した。生徒10名の感染が判明している。4月13日まで休校ということがわかっている。いつどこでかかっても不思議ではないが、気を付けていくようにしていただきたい。

3、協議・報告事項

(1) 各係からの報告

◆教育委員会事務局体制について

◆学校教育係

- ・令和4年度児童・生徒数について
- ・ICT教育の推進計画について

ICT教育親子体験教室

日時：令和4年5月14日（土）13:30～15:00

場所：高森町福祉センター2F 大ホール

GIGA スクール構想についての説明。学校内で行われている ICT 機器を活用した授業の紹介。あわせて、プログラミング学習についても教材を実際に触れたり見て頂き、ICT を活用した学習の現状を周知。対象は町内小学校に通う児童その保護者。コロナ禍ということもあり限定12組。総勢30名ほどを想定している。4月5月は年度切り替えもあり、下準備の期間として6月から本格始動。GoogleMeet を活用することで、休校になった際の在宅学習に活用ができることを想定。

(教育長) 募集はどのように。

(事務局) ネット上で募集をかけて、先着順というようなことになるが、締め切りを設けて行う予定。

(庄司委員) 一回のみなのか。

(事務局) 当初は1回の予定だったが、人数を絞っているのでは要望があれば、秋にも実

施予定。ひとまず反応を見てみるということ。もし秋にやる場合には、違う人を対象に開催したい。

(湯澤職務代理) 保護者の理解を得るために他町村も苦勞している。資料を紙ベースでいただけるとありがたい。

(清水) 共同学習を実践してみたいと考えている。一つのデータをみんなで触ることの体験。もう一つはプログラミング学習を体験してもらい知ってもらうようなことを考えている。

◆こども支援係

・令和4年度園児数について

山吹、下市田、みつば保育園の定員、8割程度が入園。ぱどまについては、吉田河原保育園と吉田保育園の園児が入っているような状態。園児全体としては415名いる。3歳以上児が少し減り、未満児が増えている状態。

・認定こども園ぱどま、新みつば保育園の進捗状況について

4月3日に認定こども園ぱどまが開園。外構工事が少し残っている部分があるが、大方でき上っている。5月に一般向け解放よてい。

みつば保育園は5月いっぱい造成工事を実施予定。通行止め等はなく、ガードマンが交通整理をする予定。来年の4月開園を目指して、順調に進んでいる。

・あったかてらす開館記念イベント「Happy Happy フェスティバル」

日時：令和4年5月5日（木）午前10時～12時

場所：あったかてらす・丸山公園

内容：手作りおもちゃ・ポップコーン、お菓子などの配布

芝でのそりあそび 等 雨天も開催

青空ブックマルシェ(ほんとも企画)

公園内に簡易的な読書スペースを設置。幼少期の推奨図書のPRと、家庭での読書を促進するきっかけとする。雨天時は6月中旬に延期。

開園から4年を記念して、指定管理業者ゆりかごが主催して開催するイベント。就学前のお子さんと家族を対象に実施。図書館主催の青空ブックマルシェと共同開催を実施する予定。

◆社会教育係

・山吹ほたるパーク周辺開発事業について

3月末までの経過として地域説明会では、山吹各地区や全町向けの説明会を実施。おおむね了解をいただいているような状態。関係する土地については、2月1日に取得を完了。クラブハウスの賃借については、町の土地となったため、株式会社宝船と年間120万円で契約。クラブハウスの賃借については、600万円で契約。令和4年度は、ク

ラブハウスの実施設計を行い、令和5年度の供用開始を目指している。令和4年度からは建設課の地域デザイン係へ業務の移管がされた。

(湯澤職務代理) 広報に載っていたので確認させてもらった。

・飯田線 100 周年記念事業について

山吹駅と市田駅が開業 100 周年を迎えるため、記念したイベントを実施する。実行委員会を立ち上げ実行していく予定。4/20 に第 2 回準備委員会を実施。特別臨時列車の運行をメインに考えている。

(湯澤職務代理) JR 東海と話しはしているのか。

(事務局) 行っている。

(湯澤職務代理) 昔の飯田線(車輛)が通るようなことはないのか。

(事務局) まだそこまでの話はしていない。1つの意見として検討させていただく。

(湯澤職務代理) 飯田線開通時には花電車が走ったと聞いている。それも聞いてみてほしい。

(事務局) 予算化はしていないが、実行委員会でどういった内容を取り組んでいくかを検討してから予算化も検討していきたいと考えている。

(庄司委員) 実行委員会の構成メンバーはどういった方か。

(事務局) まだ明確には決まっていないが、地域の方からの提案もお聞きしているのでその中から人選を行っていく。

(庄司) 吹奏楽部等も呼べると発車の際に演奏がされると豪華になりいいように思う。

・地域人材教育について

今までは小6と中2で町長とまちづくりについて懇談をしてきた。今年は中学校は流しそうめんという話もある。小学生も何か考えていきたい。5年生からまちづくりを見直そうということで、小5からスタートの年として、役場見学等を通して、やりたいことや課題を見つけ、小6に実行できるように考えている。小学校と中学校が交流し、大人からではなく、子ども同士の情報交換を行い、つないでいく学習にしたい。中学1年は振り返りの年と2年時の取り組み内容を考える都市としていくように考えている。

役場の職員が中に入ってくが、学校職員と連携をどうとっていくかが課題ではあるが、話し合いを重ねて調整をしていきたい。

第7次まちづくりプランでは、それぞれの自己実現、なりたい自分への挑戦。そのためには人材として、自分も地域に生きている人として成長していくために、やりかたとしていいのかを考えた。その結果、今のやり方になってきている。1年から4年までの間での学習があってこそその5年での学びにつながるため、低学年での学びを大切インしていきたいと考えている。中1の空白をどうするかということも課題であるが、一気に全部が完結できるとは思っていないが、少しでも体系づくりをしていたほうがかかわりやすいのではない

か、ということで検討をさせていただいている。

今は、各校の各学年がどれだけ総合的な学習の時間が取れるのか確認をしている。子どもたちと一緒に取り組みたい事業を各課に投げかけ、取りまとめを行った。しかし、役場が考えることは固いものが多く、子どもたちが楽しく取り組める内容なのかというところもある。

明日、各校の校長と話をする機会があるため、そこで改めて話をして検討していきたい。今の形で走りながら修正を加えるように進めている。ぜひ、多くの視点から意見をいただきたいと思う。

（湯澤職務代理）キャリア教育も含めて、地域人材教育では学校の先生と行政の意識の差は大きい。どうしても学校はやらされ感を感じてしまうのではないか。学校が「自分たちがこうしたい」ということに対して、教育委員会がサポートする形でないといけないし、先生自身も伸びていかない。また、学習が先生たちの手にゆだねられないと、子どもたちに還っていかない。つまり、先生のやる気が伝わらないと子供たちに還らないのではないか。学校が手一杯になっているところに、上からの依頼が来ると困り感につながってしまう。また、学校が教育課程そのものを整理していかないとのめりこめない。3校が共通の地域教育科（カリキュラム）を作っていないと難しいように思う。

（事務局）以前、「私たちの故郷」を新しくするのはどうかと資料館に相談したことがあるが、その際に、活用しているなら学校からその意見が欲しいし、それがないのであれば、新しくする必要はないと感じる、ということを話していただいた経過がある。地域教育専門員のような方がいることも必要かもしれない。結構なウエイトを占めているため、学校支援も含めて考えていく必要があるように感じる。

（湯澤職務代理）そのとおりで、下から湧き上がるアイデアでないとやる気が出ないだろう。また、うまくいった、よく頑張ったという効力感のない経験になってしまう。子どもを育てるのは、地域や行政という考えもあるが、教員が変わらない限り子どもは育たない。高森町の思いを先生たちに伝えていかないと意識は変えられないだろう。行政の案を出しすぎてしまうと、先生たちはなかなか変わらないのではないか。

（事務局）先生たちと話をすることが大切だということはわかっているが時間軸的に中々難しい。

（湯澤職務代理）教育委員会が何でもやってあげているのはよくないだろう。先生たちが発想の機会を作ることすらしていないようになっている。教育委員会が動きすぎているのではないか。

（事務局）校長、教頭の考え方で大いに変わるように思う。教員によって学びが変わるといえるのは良くないと思っている。

（湯澤職務代理）子どもは組織で育てる、システムで育てるということ。そのシステムを作るのは学校であるべき。しかし、今はそうでないというのが実態ではないか。

（教育長）中学よりも小学校のほうがそういった意欲は強いように思う。小学校の先生は

中学校の示している軸に合わせて教育をしている。

いろんな材を使って学ばせたいという思いは小学校の先生のほうが強いように思う。

（湯澤職務代理）先生と地域の方との交流があるほうがいい。カリキュラムを変えていくと大きく変わる。〇〇精機とコラボして授業してよ、というように言うと、始めは困ったとなるが、実際に行って話をすると目が開かれる。そこでやりたいことを見つけられるようになる。何か起爆剤が必要のように思う。高森町の願いははっきりしている。そのアイデアを町が出しすぎないようにしたらいいい。

（事務局）先生はまだ地域人材教育を理解していない部分がある。前例踏襲でやればいいのかというような解釈で進んでいるように感じる。先生と役場職員が話をしていくことが非常に大事。

（湯澤職務代理）どうしたらいいか、というような投げかけをして一緒に考えてもらうことがないと学校は主体的になれないだろう。

（事務局）先生との意見交換が必要になってくる。学校がどうしたいか、というような話をしていくのがいいように思う。先生と人をつないでいくことをすれぱうまくいくのかもしれない。

（湯澤職務代理）「町としてこれできますよ！」と出してしまうとレールに乗せられた、やらされ感の教育活動になってしまう。自分がやってきたことだったら子ども目線になって子どもと対話ができる。そうなるとその会話に人材育成の話が出てくるようになり、効果のある学びになると思う。

（庄司委員）先生方が前向きになってやることが大事になってくる。教育委員会が先生を支援するというような立場でやる気になっていただくようにしないと本当の効果が見込めないのではと思う。そのためには対話をしないと変わらないと思うため、すぐにでも何か話せる機会があるといいと思う。

（事務局）担当の先生との対話はしてきたが、そうでない他学年の先生との話をする機会がなかった。今後はそういった機会も作っていききたい。

（湯澤職務代理）担当の先生は理解をできたが、逆に担当の先生だけが校内で浮いてしまうようになる。そのため、話を提供する職員の幅を広げていくようにしたほうがいいのかと思う。

（事務局）中学は人が多く、担当のみとの会話になってしまうため、学年会等にも足を運ぶようにしていきたいと思う。

◆文化財保護係

- ・「高森の道」完成に伴う今後の利活用について

R3年度に高森の道ということで昔の道をまとめた冊子を作製した。元気づくり支援金を活用して500部作製した。町あるきイベントを継続していくため、そのたびに教材として活用していきたいと考えている。

◆図書館

- ・漫画「今村清之助」完成に伴う今後の利活用について

高森町のイラストレーターアサミネ鈴さんに依頼をして作成をした。400部を制作。飯田下伊那の学校にも配布予定。小原が丘美術館での展示も考えている。

（湯澤職務代理）区民会館等へは置かないのか。

（事務局）まだ完成したことを公表していないため、まだそういった要望がない。

(2) その他

◆高森音楽祭(仮称)について

以前からスポーツは盛んに取り組まれていたが、文化的事業が盛んではなかった。ジェスクからの提案もあり、9/15～9/17の3日間を中学生と共同してできないかということで進めている。高森中の伝統の合唱と演奏を軸に考えている。都心部から離れているような場所でも本物を経験できるということを大切にしていきたい。文化的な事業を中学校の柱として取り組んでいきたいと考えている。県の元気づくり支援金や国の補助金等を考えていきながら進めていく。一流の方々とかかわりながら進めていくというのは非常におおきな経験になるように思う。

（庄司委員）ジェスクが主催の霧島国際音楽祭が第42回を迎える。世界中から演奏にいられている。ジェスクでは調布の音楽祭も行われている。飯田市でもアフィニス音楽祭を開催しており、そちらはたばこ産業がバックで開催していた。

大きなことではなく、小さなことからスタートというように考えている。ホールがないことやコロナのことを考えると屋外での開催も考えられる。演奏者の小林さんと上野さんは「題名のない音楽会」に出ているような方々。

（事務局）場所のキープはできそうだが、やるということが決定したうえで中学校と話をしていきたいと思う。

（庄司委員）中学生参加ならいいと思うが、地域の方からの協力がないと難しいように思う。経費もかかることを考えると。

（湯澤職務代理）大賛成。音楽祭ではなく、芸術祭というようにして幅広くできるようにしたらもっといいのでは。中学生の吹奏楽部ということだが、他の子どもたちにも聞かせてあげたい。小学生のころからよいものに触れることで子どもの未来の新しい選択肢になるように思う。スポーツ以外の活動にも町として力をいれていくことは大切。

（事務局）将来的な展望も含めて考えていきたい。

4、その他

- ・現地視察の日程について

5 月中を目途に実施する。

視察場所

5、日程等

4 月 7 日(木)	13:30	飯伊市町村教委連絡協議会理事会(職務代理)
4 月 13 日(水)	15:30	三校教委合同職員会
4 月 16 日(土)	8:30	スポ少結団式・育成会リーダー研修会
4 月 17 日(日)	10:00	ウクライナへの募金活動(中学生対象)
4 月 21 日(木)	18:00	学校運営協議会
4 月 27 日(水)	13:30	飯伊市町村教委連絡協議会理事会(職務代理)
4 月 30 日(土)		市町村対抗駅伝大会

6、閉会

【次回教育委員会】

◆ 5 月 12 日(木) 定例教育委員会 午後 3 時 30 分～